

の椅子に坐ったことがある。それから品行は内、唱歌は内、今日の音痴になったような気がする。教育はむずかしいものだ。法華経では、開示悟入と云っているが、先ずやる気を起させることが第一である。

好き嫌いその二

今日一月廿八日、病院の昼の食事にウドン焼き魚それに冷いものなど全く立派なもので文句など云われるべきものではない。殊に私はウドンが好きで曾て関清秀さんの奥さんがなくなつてその速夜の時だった。

亡くなった奥さんの妹さんのお亀さんが、沢山つくつたからお変りして召し上つて下さいと云うのでその気になつて何杯お変りしたのか、遂い、言葉にあまいた腕をさし出した時だった。もう無いとの事での処置で困つたことがあつた。なければ「さあどうぞ」とお変りをすゝめなければよいものを、恥をかゝしたり、こんなに困つたことは私にはなかつた。

その時は主人清秀さんと兄さんの松太郎さんそれに長女簪の佐野先生の私を入れて五人であつたが、用意した五人分を頂いてその上お変りをした事である。これが人知れ渡つて“ウドン”好きな○さんと云われ、今日に至っている。

それが、今日ウドンなのである。食欲がないと云うのか少し手をつけた俣にして、魚も野菜のそれも手をつけられなかつた。

好き嫌いするのはわがまゝだと看護婦さんに教いられた。婦長さんシアア、スンニ、スジャータ。

(十一) 日堂上人の挨拶書簡

先住第廿四世日昌上人 名は田口公信師

晋山式参列の日堂上人の挨拶書簡

上行山法華寺先住第廿四世日昌上人か昭和八月入寺その晋山式は盛大なものであり大いに檀信徒の
信望と期待の内に奉行され為に帰依頗く篤く教宜の実が揚がった。此の時の檀家総代は七名であり式
典取締総代の中村謙蔵氏（このとき盛岡市長現職）宛手紙がある。

差出人 東京市品川区南品川四丁目（南馬場） 顕本法華宗妙蓮寺 日堂拝 八月八日

受取人 盛岡市加賀野旭小路

中村謙蔵尊台 親展

本文

啓白 御芳東ヲ賜ハリ

御高義奉感謝候

酷暑尚難凌候所以先

御尊台御健勝ニ為

国御精勤之条自慶

養利ノ至リニ御座候

今回法華寺住職晋

山式ニハ甚深ナル御高

配ヲ蒙リ稀有之盛

况裡ニ終了致候旨昨

夜池沢ヨリ詳細報告ヲ

相受ケ申候殊ニ

御尊台御熱誠ナル外護

之表示ニハ感激致居候

三、歴代書簡ほか古文献

何卒今後共仏法

久住ノ為メ御便達御

庇護奉祈候

新住職田口ハ信念ニ活い

クル希ニ見ル青年僧ニ有之

技倆人格モ相共有之候間

御尊台多年御奉行

ノ御経験ヲ以テ誘導

被下候へは

東北ノ本宗モ久シブリニ

活気ヲ示ス事ニ可相

成ト奉存候

久敷御配慮御尽

カヲ蒙リ候報答旁

御挨拶申述候

南無妙法蓮華經

昭和八年八月八日

日堂花
押

中村顕蔵居士

座右

常磐津林中

墓碑文

師八通稱忠助盛岡藩士石川清藏ノ子山蔭氏ヲ嗣グ明治十二年常磐津家元ニ推サレ十一代目小文字太夫ト名乗ル故アリテ別ニ一派ヲ樹テ宮古路國太夫半中ト稱ス明治二十五年盛岡ニ来リ留ルコト四年常磐津林中ト改ム九代目市川團十郎ノ請ニヨリ東上スルニ及ヒ名聲頓ニ揚リ近世ノ名人ト稱セラル明治三十九年五月六日六十五歳ヲ以テ歿ス

盛岡常磐津文字会

盛岡三業組合

常磐津文字兵衛

若柳力代

岡本秀孝

法名

深秋院殿華香日住大居士